

第4回 仙台市総合計画審議会議事概要

この議事概要は、事務局の責任においてとりまとめた速報であり、事後に修正する可能性があります。なお、正式な議事録については、別途ホームページに掲載しますので、そちらをご覧ください。

日 時	平成22年5月31日（月） 18：30～20：30
会 場	仙台市役所2階 第一委員会室
出席委員	足立委員、阿部一彦委員、阿部初子委員、石川委員、内田委員、江成委員、大草委員、大滝委員、大村委員、岡本委員、小野田委員、菊地委員、小松委員、佐竹委員、菅井委員、鈴木由美委員、高野委員、西大立目委員、西澤委員、庭野委員、針生委員、樋口委員、増田委員、間庭委員、水野委員、宮原委員、柳生委員 [27名]
欠席委員	鈴木勇治委員、永井委員、柳井委員 [3名]
仙 台 市	企画調整局長、総合政策部参事、総合計画課長、総合計画課主幹(1)
次 第	1 開会 2 議事 (1) 新総合計画の全体構成（素案）について (2) 部会の設置について (3) 新総合計画策定に係る市民参画事業・広報について (4) その他 3 閉会
配 付 資 料	1 現総合計画の構成・内容と課題 2 新総合計画の全体構成（素案） 3 部会の設置について（案） 4 審議会日程（案） 5 新総合計画策定に係る市民参画事業・広報について 6 仙台市の主な計画の概要

会議の概要

議事

(1) 新総合計画の全体構成（素案）について

- ・会長から、資料1及び資料2の作成に至る経緯について説明し、続けて事務局から、資料1及び資料2を基に説明し、その後、意見交換を行った。

<主な意見等>

- ・基本構想は哲学を含めてははっきりした姿勢・方針をつくり、基本計画は数値目標などを伴いつつ何をどこまで進めるのかを決めるのが本来の姿。しかし、だんだん難しい時代になってきて、さらに基本計画も議決することになり、どうしても数値目標はつくりにくくなる。基本構想、基本計画の重複感を排除することも含めて、いろいろ新しい試み

の部分もある。

- ・部門別の計画は、新政権から縦の仕事の仕組みが少し複雑になってきており、そのようなか中でどういう部門別にするのか、本当は現代の最も大きな問題である。
- ・区別計画は、従来、全体の基本計画を区別に落とす感じでまとめられていたが、市民力云々を言い出すのであれば、区民のこう考えていてこうしたいという思いが反映されたものになってしかるべき。しかしながら、一朝一夕にはいかないもので、そういう方向にどうやって進めていくのかを議論しながら、計画をつくらなければならない。いろんな新しい課題を背負っている枠組み構成なのだと思う。
- ・区別計画について、先日話を受けたが、全体のフレームがわからず、余り先を考えない意見が多くなってしまった。区別計画の進め方は検討が必要と感じた。

地域特性に応じたきめ細やかな政策を進めていくのが市政運営の基本。区別計画についても、地域特性を十分分析した上で類似の圏域などの傾向をしっかりとらえ、地域住民の皆様のご意見をいただきながらまとめていきたい。策定のスケジュールの関係もあり、まとめた計画をさらに市民協働と進化させていくという過程も含めて、新たな取組を進めていきたい。

- ・区の計画策定にあたっては、各年齢層などできるだけ広く声を拾えるような仕組みを、五つの区の中でそれぞれに応じて工夫してもらえるとありがたい。
- ・市民力について、なかなかわかりにくい。これまでの行政サービスを受けられる市民という立場から、行政と一緒に何かを始めようという市民に変化してきて、市民協働のまちづくりとなり、第三段階的に今回の自律した当事者という話になってきた。その辺のところをもう少しイメージができるものを、起草委員会から審議会の中でお示しいただきたい。
- ・基本構想の構成と骨子について、目玉の市民力を上の項目に上げるとか、あるいは都市像の中の上位理念に市民の力を入れ込むとか、インパクトのある形で示した方がわかりやすいのではないかと。また、市民力をどういった枠組みではぐくんでいくのか記載した方がよい。
- ・仙台を取り巻く環境がこう変わっていくと、市民力が重要になっていく、その中で仙台はこういう都市像を目指していく、そのためにこのように推進していきます、という一つのストーリーがあって、初めて市民がその哲学というものを感じていける。ストーリーの中に自然に市民力というものを位置づけて発信していけるような基本構想になってほしい。

市民力としてどの程度書ききれなのか、その辺も踏まえて、ストーリーとしてどういう構成にすればいいのか整理していく必要があると考えている。

- ・提案された構成・項目はどれも大事で必要なものであり、異論はない。その中で、都市像の目指す姿と一緒にやはり市民の力が必要なんだというのをストレートにうたうべきではないか。
- ・将来の都市の姿で4つの都市像の上位理念として「ひとが輝き 暮らし続けたい 杜の都」というフレーズが案としてあがっているが、仙台に暮らしている人だけではなく、仙台を訪れてくださる方、出身が仙台で仙台のことを思っていてくださっている方々にとっても仙台の都市像が表現できるようなフレーズが望ましい。

- ・経済について、その位置づけや方向性の記述が必要。今後日本経済も大きく変わる中で、ど

うやって支店経済から仙台発の産業や企業を生み出す力を育てていくのかというのは、税収の面からも重要な要素である。一つはコミュニティビジネスとか、ソーシャルビジネスとか、社会的課題のためのビジネスが事業として成り立つような流れが必要であり、既存産業の衰退をカバーする新たな雇用の枠組みも重要。チャンスがあるまち、可能性があるまちとしノウハウやビジネスを呼び込めるような、そういう戦略的なまちづくりが必要。

- ・東北の中での仙台の役割を戦略的に位置づける必要がある。それぞれのポテンシャルを生かしてウィンウィンな関係になるような連携やコラボレーションによって、仙台側から積極的に仕掛けていくような関係が見えるとよい。

広域的な視点の必要性などについて、観光に限らずいろいろな面で仙台の東北の中での役割を意識しながら、どこまで書き込めるか検討してまいりたい。

- ・経済、東北との関係については、起草委員会の中でも多数意見が出た。地下鉄東西線など、仙台市そのものの持っている様々なインフラをベースに、東北全体との結びつきをどう構成するか、人口減少により地域の活力やコミュニティの維持力が低下する中で、コミュニティビジネスやソーシャルビジネスとの関係からどのように取り組んでいくか、大事な問題。
- ・この10年間で、何ができて何ができなかったのか、相当しっかりと振り返りが必要であり、それを踏まえた上で次の10年なりさらにその先を見据えていく、そういう進め方が重要。
- ・人口減少の中で高齢者人口の増加を見据えて様々な今後の社会的状況の変化を考慮すると、恐らく間違いなく様々な予算が多く掛かる時代が来る。ある意味では、今回の計画の中で一定の応分の負担を市民の方にしてもらわないとならない時代に入っていることを、何らかの形でわかりやすくイメージを伝えるべきではないか。この辺も是非、起草委員会でもしっかりと取り組んでほしい。
- ・「基本計画の推進」の部分の「庁内横断的取り組み」に関して、庁内横断的取組は長らく課題とされているところであるが、今回の記載にあたって、今後こういった取組を想定しているのか。

ご指摘のとおり従前から縦割りの弊害とか横断的な取組ということで非常に求められていたところであり、具体的には、例えば、パイロットプロジェクトのようなものを指定して、そのプロジェクトに対して複数の部局が予算と責任を持てるようにするなど、新しい手法の実現を試みることにについて内部で検討しているところである。

- ・ちょっと若い世代から見たときに、市民の力がありますと文章に書かれても、直感的には「何か言っているな」程度に思ってしまうが、一方で、自分たちで決められる範囲、決定権などの責任を持ってやれるのであれば、一生懸命に考えようという当事者意識が出てくるのではないかと思う。単に声を聞くレベルではない、市民が実際に責任をもって何か決めて、行政に本当に反映できるような仕組みなど、是非そこまで踏み込んで対応ができればよい。
- ・市民力という便利な言葉を使うことにより、本来行政がやるべき事柄までも市民の方にかぶせてこないような枠組みの作り方が重要。また、市民力については、ほかの審議会にも影響を及ぼす重要な言葉であり、この市民力はいったい何を指すのか、育つはぐくむべきものなのか、元々あるものなのかどうなのか、相当きっちりとした定義づけが必要。
- ・横浜市の泉区で、具体的に住民がそれぞれの能力を提供したり負担したりという一方で、自

分たちの地域のことは自分たち地域が決めるといった仕組みが始まっている。それによって市民が自分たちで決めたことについて自分たちも責任を負うと、単に税金を納めて後はサービスを受けるだけというものではなくなってくる。その意味では、そういった地域自治の仕組みというのをどのようにつくっていくのかが今後ポイントになってくる。

- ・市民力については、進め方まで踏み込んだ形で記載しないと、ただ綺麗な耳障りの良い言葉で終わってしまう。区別計画についても、市役所の職員にとっては、上位に基本構想・基本計画があるわけだが、暮らす側にとっては目の前にあるのは区別計画になる。現状、住民自治というと町内会だけを指すが、市民活動の場では、NPOなどが町内会とどうクロスしてその地区ならではの形をつくり上げられるかが課題になっている。特に区の計画については、程度の問題あるが、市民力を何らかの形で担保するような書き込みができればよいと思う。
- ・市民の力、市民力というのは奥山市長のうりであるが、その内容について、皆、具体的な話を聞きたいと思っているので、施政方針の中に出ているものも情報としてしっかり提供すべき。
- ・市民力については、これから育てていかなければならない市民力も重要。自然に育つものだけを待っているだけではなく、若い人たちに対する市民力をどうやって養っていくのか、市民力を育てるという視点に立った記述も入れていただきたい。そうしたシステムや教育などの記載があって初めて、将来像がきちんと組み立てられていくのではないと思う。
- ・ある住宅地の人口などの割に細かい情報も見られる仕組みがあれば、市民の判断力も随分変わっていく気がする。市民力の育成には、普段余り目にしないような情報の開示も必要。区別の計画を本当につくろうとすると大変なことになると思うが、市民に自分たちのまちづくりについて夢を語ってもらう仕組みをつくらないといけない。
- ・恐らく、本当の意味で市民参画を始めたら、すごくコストも、手間も、時間も掛かる。しかしながら、それをやっていかなければ本当の意味での市民力は育たない。そうする以上、役所には情報は公開してほしいし、いざというときは力になっていただきたい。本当の意味でその市民力を実効性のあるものにするためには、市民の側にも役所の側にも覚悟が必要だと思う。
- ・市の職員の方の多くは職員の立場で市民協働とかかわる。私の場合、企業人であって地域の人間でもあるので両方のスタンスを持って地域活動にかかわり、企業の持っているリソースを地域につぎ込むということも十分に可能。行政の職員も一市民として一緒に知恵を出して汗を流して、そして市民と協働する、住民と協働するというような、意識を変えるべきである旨も盛り込むべき。また、行政のリソースだとか企業のリソースが地域と連携することによって新しい力が出てくると思うので、そうした書き方が必要ではないか。
- ・今までの10年の計画の振り返りが大事との話があったが、これからの10年は経済の状況や環境なども大きく変化する時代だと思うので、1回に10年すべての計画ではなくて3年刻みのような中期計画を策定すべきではないか。

総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画という構成であり、実施計画は3年ごとに策定することになっている。

- ・現状として、まちの防災や防犯、安全などいろいろなものに関与しているのはやはり町内会。こうした町内会の活動を市民力として位置づければ相当のものが解決できる。場合によって

は少ない費用で大きな効果を生む。ただし、町内会のほかNPOなどもそうだが、熱心な人がいなくなってしまうとさっと消えていくケースも少なくない。継続できるような市民力を育てていくことが大事だと思う。

- ・仙台は、人間関係が温かいという田舎の良さと都会的な合理的で近代的な気持ちよさを併せ持ったまちであり、市民力を育てるのに適したまちだと思う。お互いの顔が見えるコミュニティの創成により、市民の生活を守り利便性を上げることが可能となるのではないか。コミュニティにおける人間の協力関係を民主的に組み上げていくルールを、市の方で策定してモデルとして提案するということが必要。
- ・一方で、ボランティアの市民団体では解決できない、例えば暴力のような深刻な問題もあるので、そういった問題への公共のかかわりに関するメリハリの利いたルールとガイドラインを丁寧につくり上げ、市民力を誘導するところまで考えられればよいと思う。
- ・市民力を実体化する議論がこれから必要。実際、市民活動の場面ではいろいろな問題が出てきているが、この1年ぐらいの審議会の議論の中でとてもまとまる話ではないと思う。市民力をはぐくむという視点からも、総合計画の策定あるいはそれを推進していく上で、要所所で検証していく機会をつくる必要があるのではないか。
- ・仙台市民の定義がまだ大雑把な感じがする。企業、団体、NPOなどというくくりのみならず、町内会だったり、高齢者の集まりだったりがあるわけで、それらも吸い上げられるような枠組みが提示できればよい。また、区別計画あるいは基本構想の中の位置づけでこういうことをやりたいなビジョンを示せば、区で行っている協働事業もやりがいが出て、よりアピールできるのではないかと思う。
- ・大学生などの若い人たちの市民力を育てる視点は非常に大事。また、福祉の観点でも、地域で信頼できる人が多い地域が望まれているところであり、総合計画の中にも信頼という言葉もあっていいのではないかと思う。国で騒がれている地域主権改革もどのようになるか気になるところである。
- ・市民には、働いている人も含まれることが本当に伝え合えるのか気になるところ。働き続けられる環境づくりと同時に、働いている人が地域でまた力を発揮できるような環境の整備も大きな意味がある。
- ・一つ事務局に言いたいのは、起草委員会でかなり議論されたことが資料の中に入っていない。抽象化されてしまい仕方がない部分もあるが、もう少し書き入れてもらえれば、議論がもう少し先に進んだのではないか。
- ・市民力というのはコストの削減ではない。実際最初はコストが掛かる。それをきっちりやっていき、コミュニティビジネスのような経済活動の中に入れ込み、地に足の着いたものにしていかなければならない。これは起草委員会でも議論した内容。
- ・構成の話で、「仙台の市民力」は当初は「都市像」の前に位置づけられていたが、起草委員会でも、さすがにこれを最初に持ってくるのは議論が重すぎるし、まだ定義も十分ではないことから、「推進に向けて」に加えて、その中で明確にしようという趣旨だった。ただし、皆さんのお話を伺いながら、市民力に関する議論を引き起こすために、むしろ最初に出して、何かわからないけれどもこれに向かってみんなが議論していくということも、議論するきっかけとなってむしろいいのではないかと考えている。

- ・今の町内会は行政の下請け機関となっており、非常な大きな負担を感じている方が多く、それにより町内会に参加する方々が年々減っている。こうした町内会活動が市民力の代名詞になっていた気がしており、そうした意味で、新たな形で市民力を考えることは非常に重要。ただし、市民力というとな何をしたいのかイメージがわからないので、総合計画を見た方が「それなら自分でもできる」と思える材料を例示することが必要。その上で、NPOや企業、町内会が共通の責任を持って、同じ土俵で活動できるようになればよい。
- ・PTAでも、例えば、朝の登校時にベストを着て見守ってくれている安全ボランティアは、町内会にかかわっている人もいない人も、真冬の大雪でも大雨でも、傘をさして積極的に皆様来てくれる。これは象徴的な市民力だと思う。学校ボランティアに象徴されるような方々の市民力が、学校単位の中で見せられていくことにより、子供たちの中にも市民力が育っていくのだろう。総合計画の中にも、こうした具体例などを入れることにより、中身のある見えるものになっていくのではないか。
- ・人材育成により力を入れて、人的資源をさらに育てていくことが大事。近年、生きる力を取り込むことが教育のキーワードとなっているが、これは行動する市民力に直接つながっていくものだと思う。一方で、例えば生活保護世帯、障害児、障害者、高齢者といったいわゆる社会的弱者の立場にある方たちにとっては、「行動する市民力」という言葉は少々強すぎる言葉として受け止められるのではないかと思う。そういった弱者の方たちも包括した形でこの仙台の市民力をどう考えるかという視点も必要なのではないか。
- ・将来の都市像の姿について、子育て・教育・若者など細かいテーマが上がっているが、是非これらのテーマについて関心がある人が自発的に集まり、議論する場として市民会議のようなものを立ち上げてはどうか。同じ様なことは区別計画についても言えて、地域特性は多々あり、一本の区別計画で書くことはほとんど無理。こういう地域問題やこういう地域特性を持っているところのまちづくりを考えるグループを町内会ベースでもNPOベースでもいいので立ち上げ、議論がまとまれば区の実施計画にできる部分は反映していく。後半年とか1年とかで基本構想、基本計画をつくっていくという点では、そうした議論の枠組みをどう組み込んでいけるかということではないか。
- ・「従来型の市民協働にとどまらない新たな枠組みも検討」とあるが、やはり行政側が市民とどうという目線ではなく、市民からいう行政との協働という目線を大幅に取り入れていかないといけない。企業も含めて市民が行政との協働モデルというものをしっかり考えて豊かにしていくことが大事だと思う。

(2) 部会の設置について

- ・事務局から、資料3及び資料4を基に説明し、原案どおり承認された。

<主な意見等>

- ・市民力について煮詰まっていけないようなので、提案の二つの部会のほかに「市民力部会」を設けてはいかかが。

起草委員会でもいろいろご議論いただいている。部会としては、基本的に施策分野の見える二つの部会にさせていただき、市民力については起草委員会でさらに議論する形ではいかかが。

- ・起草委員会においては、市民力は何かと定義すべきものではなく、一つ一つのケーススタディとそのフィードバックを繰り返し、そうした経験の蓄積が、市民力というものを自明にするのではないかと、という論理的なモデルについて議論した。論理的にはかなり正しいと思うが、行政文書に書き下すには余りにも複雑で、理解を得られにくい。本当は、市民力は基本的には謎であり、それが個人個人の個性なり活力を奮い立たせるインセンティブになるのではないかと思う。一方で、行政が言葉を示すときには、その定義は何かと必ず聞かれる。だから、別にきちんと広報部会で説明の論理を立てる必要がある。
- ・制度設計にはやはりある種のクールさは必要。みんなにわかるようにという平たい制度設計をしてしまつては、困難な時代を渡ることは絶対にできない。制度設計はかなりがんばって構築し、一般の人にはわかりやすくきちんと伝えて、それを吸い上げる仕組みを明確につくるか。そうした考え方と取組が必要。
- ・市民力については、今回提案がある二つ部会にいずれも関係しており、それぞれの部会の中で議論し、その後、全体の案をまとめていくときに再度議論しても良いのではないかと。恐らく、市民力だけの部会では、ある意味抽象的な議論に終始してしまうのではないかと思う。

(3) 新総合計画策定に係る市民参画事業・広報について

- ・事務局から、資料5を基に説明し、その後意見交換を行った。

<主な意見等>

- ・先ほど話の出た市民会議のようなものはどう位置づけられるのか。
総合計画は時間の限られた中での議論となるため、大きな方向性を示すこととし、議会の議決を経たのちに、具体的にどのような地域政策を展開していくかが重要であり、ご指摘のあった方法などを含めて検討していきたい。
- ・パブリックコメントについて、意見を言いたい方が発言できるような場はつくらないのか。シンポジウムに出てきてくださいということか。
シンポジウムか、区別意見交換会の場面である程度のご意見をいただけたらと考えている。
- ・事業仕分けのネット中継のような取組は可能か。
以前から当該審議会も公開となっているが、傍聴者は少ない状況。今後は、審議会や部会をメディアテークで開催するなど、市民が参加しやすいよう、できる範囲で工夫を施していきたいと考えている。

(4) その他

- ・事務局から、資料6に基づいて、市の主要計画の改定状況の説明を行った。